

スポーツ振興対策特別委員会資料

令和2年10月27日(火)
総合政策部
商工観光労働部
農政水産部
県土整備部

目 次

(頁数)

- (1) 合宿誘致のためのスポーツメディカルの推進について 1
- (2) スポーツを活用した観光誘客の取組について 2
- (3) スポーツに着目した商品開発の取組について 5
- (4) スポーツを活用した移住促進の取組について 6

合宿誘致のためのスポーツメディカルの推進について

観光推進課スポーツランド推進室

(1) スポーツメディカル推進事業

- ① 宮崎大学医学部スポーツメディカル施設利用費用の一部補助
- ② 高気圧酸素カプセルの導入（固定式3台、移動式4台）



(運動負荷試験)



(スポーツ動作解析)



(高気圧酸素カプセル)

(2) トライアスロンNTC（ナショナルトレーニングセンター）競技別強化拠点施設の合宿サポート機能の強化

① 拠点の施設整備

トレーニング、リカバリー、メディカル機能等の強化を行うため、トライアスロンNTC 競技別強化拠点施設である「ラグゼーツ葉」の改修工事を実施

●実施主体 シーガイア

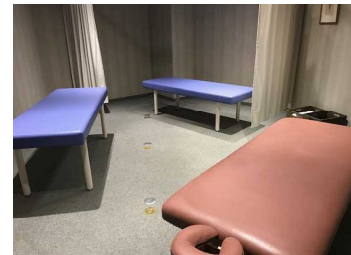
●完成年月 令和2年3月



(トレーニングルーム)



(パラ対応スロープ)



(コンディショニングルーム)

② リカバリー機器等の整備

拠点施設において、スポーツ庁の予算を活用し、トレーニング後の選手の疲労回復に必要な機器を整備。

また、宮崎県アスレチックトレーナー協会との連携のもと、合宿時にトレーナーを派遣できる体制を確立。



(アイスバス)



(高圧酸素 BOX)

③ 医科学サポート体制の整備

拠点施設において、宮崎大学医学部の協力のもと、選手のパフォーマンス向上を測定するための血液検査体制の確立。



(診察室での血液採取)

スポーツを活用した観光誘客の取組について

観 光 推 進 課
観光推進課スポーツランド推進室
道 路 保 全 課

(1) サイクルツーリズム

県では、自転車の活用を総合的かつ計画的に推進することを目的として、令和元年9月に「宮崎県自転車活用推進計画」を策定し、「誰もが安全・快適に自転車を活用することができる『自転車パラダイスマミヤギ！』の実現」を目指し、地域特性や地域資源を生かした取組を展開している。

① 宮崎の魅力を生かしたモデルルートの設定（観光推進課）

県内の各地域の特性や魅力を生かしたサイクルツーリズムを推進するため、国や市町村等と連携しながらサイクリングモデルルートの設定に取り組んでいる。(H29～R元：10コース)



(日南海岸モデルルート(抜粋))

② 自転車通行空間の整備（道路保全課）

自転車通行空間の整備については、モデルルートにおいて矢羽根や自転車マークなどの路面表示を設置し、自転車利用者が安心して走行できる空間整備を関係機関と協力して進めている。



(自転車通行空間の整備例)

③ サイクリストに向けた受入環境の整備・人材育成（観光推進課）

県内道の駅、観光施設、飲食店等にサイクルスタンド及び空気入れを設置し、サイクリストが利用しやすい環境の整備を行っている。(H29～R元：161基設置)

また、サイクルツアーの引率等を想定したガイドを養成するため、安全走行等のスキル取得を目的とした講座を実施している。(H29～R元：129人参加)



(サイクルスタンド設置(道の駅フェニックス・宮崎カーフェリー))



(ガイド養成講座)

④ 本県サイクルツーリズムの認知度向上（観光推進課）

ホームページ「ひなたサイクリング宮崎」を開設し、モデルコースやサイクルスタンド設置状況等の情報を掲載するとともに、サイクリング専門誌への本県特集ページ掲載や、日南海岸モデルルートテーマとしたプロモーションビデオ及び台湾向けのPR番組を制作し、国内外へ情報発信を行っている。



(HP「ひなたサイクリング宮崎」)



(専門誌への掲載や番組制作等のプロモーション)



(2) 武道ツーリズム（スポーツランド推進室）

令和元年度にスポーツ庁事業を活用し、「武道ツーリズムによる誘客事業」を実施した。

- ・JapanExpo でのPR活動等、フランスでのプロモーション
- ・アセアン剣道大会でのPR活動等、シンガポール等でのプロモーション
- ・フランス剣道連盟やアセアン諸国剣道関係者のモニターツアーの実施



(JapanExpo でのPR活動)



(日本刀試し切り体験)



(剣法発祥の地・鶴戸神宮訪問)

今年度は観光庁事業を活用し、武道を中心とした宮崎体験コンテンツ造成を進めている。

- ・実施主体 ひなたMIYAZAKI 武道ツーリズム推進協議会
- ・主な内容 コンテンツ造成、商品化（剣道体験、その他アクティビティ体験等）
剣道体験プログラムの受入指導者育成（マニュアル作成等）
ネット予約システムの作成
国内在住者を対象としたコンテンツモニター体験

1. 総論

(1) 計画の趣旨

自転車の活用を総合的かつ計画的に推進することを目的として、本県の現状と課題、地域特性や地域資源を生かした目標や施策の方向性を示すもの

(2) 計画期間

長期的な視点にたち
2028年度まで

(3) 計画の位置づけ

自転車活用推進法第10条に基づいて定めるものであり、国の自転車活用推進計画を勘案しつつ、宮崎県総合計画未来みやざき創造プラン等と整合を図った宮崎県の自転車活用を推進する施策に関する最上位計画として位置付け

2. 自転車を取り巻く現状と課題

- (1) 人口動向
- (2) 地理的特性及び自然環境
- (3) 自転車の利用状況

3. 自転車活用推進計画の施策体系

目指すべき姿：誰もが安全・快適に自転車を活用することができる「自転車パラダイスみやざき！」の実現

目標1 サイクルツーリズムの推進による観光振興と地域活性化

施策1 地域の魅力を生かしたサイクルツーリズムの推進

施策2 スポーツキャンプ・合宿の誘致

【指 標】モデルルートにおける自転車通行空間の整備を推進
0km(2018年) → 120km(2028年)

県内におけるモデルルートの設定

10コース(2018年) → 20コース(2028年)

【主な取組】○県内における先進的なサイクリング環境の創出を目指すモデルルート
の設定と整備等の促進

○交通経節点等におけるサイクリスト受入サービスの充実

目標3 自転車事故のない安全で安心な社会の実現

施策6 交通安全意識の向上に資する広報啓発活動や指導・取締りの重点的な実施

施策7 学校における交通安全教室の開催等の推進

施策8 高い安全性を備えた自転車の普及促進

施策9 災害時における自転車の活用の検討

【指 標】人身事故のうち、自転車関連事故の割合

10.5%(2018年) → 5%(2028年)

県内の公立小中学校における通学路の安全点検の実施

341校(100%)(2018年) → 全校(100%)(2028年)

【主な取組】○自転車安全利用五則の活用等による通行ルールの周知

○自転車通学・通行の視点を踏まえた通学路の安全点検実施

4. 計画の推進方策

(1) 計画の推進体制

○県内の市町村、県の関係部署、関係団体と連携して施策を推進

(2) 計画のフォローアップと見直し

○計画の進捗状況に関するフォローアップを実施

○計画期末までに、施策の効果に関する評価を行うとともに、計画の見直しを行う

目標2 自転車を利用しやすい都市環境の形成

施策3 自転車通行空間の計画的な整備推進

施策4 路外駐車場の整備及び違法駐車取締りの推進による
自転車通行空間の確保

施策5 まちづくりと連携した総合的な取組の実施

【指 標】自転車活用推進計画を策定した市町村数

0(2018年) → 26(2028年)

【主な取組】○自転車通行空間の整備推進

○違法駐車違反取締りの積極的な推進

目標4 自転車を活用したスポーツ活動と健康づくりの推進

施策10 自転車を利用した健康づくりに関する広報啓発の推進

施策11 サイクルスポーツの推進

施策12 自転車通勤の促進

【指 標】週に1回以上運動している人の割合を増やす(抜粋)

20~64歳男性 50.4%(2016年)→66%(2028年)

女性 48.6%(2016年)→61%(2028年)

【主な取組】○「SALKO」を活用した健康長寿社会のための支援

○アスリート育成に向けたサイクルスポーツの推進

スポーツに着目した商品開発の取組について

企業振興課食品・メディカル産業推進室

「スポーツランドみやざき」の取組を生かしたスポーツ・ヘルスケア産業の創出を目指し、スポーツチームやアスリートのニーズに対応した商品の開発や販路開拓等を支援するもの。

1 専門家による商品開発等への助言

スポーツ・ヘルスケアビジネスに見識のある専門家を招聘し、県内事業者や関係機関へ商品開発等に関する助言を行う。



2 商品開発等への助成

新たにスポーツ・ヘルスケア産業に係るビジネスを立ち上げる県内事業者を対象として、新商品・サービスの開発・改良や販路開拓に要する経費を支援する。
(補助上限額：150万円、補助率：3分の2以内)

【主な支援事例】



「宮崎県産黒毛和牛を使用した野球グラブ」

(有限会社ボールパークドットコム)



「麹菌発酵乳飲料（牛乳甘酒）の機能性を生かした新商品（アスリートゼリー）」

(株式会社 Milk Lab.)



「サーフィン用体幹トレーニング装置」(改良中)

(ナギサストア)

スポーツを活用した移住促進の取組について

中山間・地域政策課

1 移住実績等

○移住実績（県及び市町村が移住施策により把握した移住世帯数等）

令和元年度実績 558世帯 973人
平成30年度実績 471世帯 847人

○移住理由

移住相談窓口での相談時に、移住の主な理由として本県においてサーフィンをする
ことを挙げられる移住希望者が増加している。（単位：世帯数）

| | 就職 | 就農 | Uターン | 協力隊 | サーフィン | 漁業 | 田舎暮らし | 福祉 | 起業 | 結婚・同居 | 子育て | 親の介護 | その他 ・不明 |
|-----|-----|----|------|-----|-------|----|-------|----|----|-------|-----|------|------------|
| R1 | 126 | 65 | 54 | 34 | 28 | 13 | 21 | 9 | 14 | 18 | 18 | 4 | 154 |
| H30 | 130 | 59 | 37 | 23 | 16 | 16 | 12 | 8 | 7 | 6 | 5 | 2 | 150 |

※不明については、本人から回答を得られなかったもの。

2 主な取組状況

(1) 「2019 ISA ワールドサーフィンゲームス (WSG)」におけるPR

令和元年9月に開催された同大会の開催期間中に、観覧に訪れた全国のサーファー
に対し、サーフィン環境の良さや本県の移住施
策等を発信した。

- ・ ブース設置（大会会場を含む県内8箇所）
延べ約3千名にガイドブック等を配布
- ・ サーフィン移住希望者交流会
県外のサーフィン移住希望者67名が参加



(2) サーフィンガイドブックにおけるPR

例年、県サーフィン連盟が作成しているガイドブックに「宮崎ひなた移住倶楽部」
や「移住支援金」の広告を掲載している。

(3) プロ野球ソフトバンクホークス（対東北楽天）みやぎきスペシャルDAYSにおけるPR

同対戦期間中（R1.5.31～6.2）に配布する宮崎特集のタブロイド誌に「宮崎ひな
た移住倶楽部」の広告を掲載した。

- ・ 配布部数：6万部（配布場所：福岡ヤフオクドーム）

(4) 市町村と連携したPR

例年、東京にてサーフィンをテーマにしたセミナーを
開催している。

- ・ サーフィン移住オンラインセミナー（R2.7.12）
県・日向市共催。日向市金ヶ浜から中継。
サーフィン移住者による体験談等。参加者16名

